

## &lt;研究ノート&gt;

## グーグルインサイトに見る外行語の分布

## The distribution of export words using Google Insights

ながしまきよこ  
永島恭子

キーワード：グーグルインサイト 検索数 外行語 アルファベット表記 簡体字表記

## 要旨

本稿では、グーグルインサイトを用い、アルファベット表記の外行語と簡体字（中国語）表記の外行語の分布を明らかにし、考察する。総合的な分布状況を探るために、10語の外行語の分布を国別に見る。この10語の分布の推移についても探る。そのために、世界における10語それぞれの検索数の変化をみる。得られた結果から、表記の違いによる分布の特徴の相違などについても考察する。

世界における日本への関心が伝統文化から大衆文化に移りつつあることが分かった。アルファベット使用国と簡体字を用いる中国では、外行語の分布状況に相違が見られた。外行語の正確な分布状況を探るには、外行語の読みを、世界の言語で表記する必要があると考える。

## 0. はじめに

外行語は、外来語に対して、世界で特有語、新語として受け入れられた日本語のことを指す（井上 1995）。その分布状況を共時的、通時的に見ることができるのがグーグルインサイトである。

本稿では、10語をアルファベット表記と簡体字表記に変換し、それぞれの語の分布の特徴をグーグルインサイトを用い、探ることとする。まず、総合的な分布状況を見るために、10語の外行語の分布を国別に見る。さらに、分布の推移を見るため、世界における、それぞれの語の検索数の変化をみる。

得られた結果から、世界における外行語の分布状況、表記の違いによる分布の特徴の相違などについて考察する。

## 1. 背景と目的

井上（1995）は、日本語を中心に考えた「外来語」に対する「外行語」の特徴について

述べている。井上によれば、日本語から英語への外行語は、特有語か新語であり、英語に直訳できないために、受け入れられる。つまり、在来の表現を置き換えるようなかたちでは進出していない。

井上（2012）では、アルファベットをあまり用いない国家の言語による調査は今後の課題として言及するにとどまっている。

井上（2012）は、グーグルインサイトを用いた外行語の分布状況の調査方法について述べている。地理的分布の表し方、また過去と将来の使用傾向・トレンドも見られることから、井上（予定）は、グーグルインサイトを水晶玉を使用する「魔女の目図」であるとしている。

そこで、特有語、あるいは新語としての外行語を 10 語取り上げ、アルファベット表記、及び簡体字表記での分布状況を、グーグルインサイトにより見ることとする。

## 2. 方法

調査対象の外行語として以下の 10 語を取り上げることとする。

「刺身」「祭」「三味線」「おでん（御田）」「ドラえもん」「風呂敷」  
「歌舞伎」「無印良品（muji）」「うどん（饅頭）」「武道」

これら 10 語は、井上（2012）が扱った下位語より選定した。

それぞれローマ字表記、簡体字（中国語）表記に変換し、グーグルインサイトにより検索する。「ドラえもん」は漢字表記がないため、中国語名の「机器猫」を調査することとする。検索結果については、検索ボリュームが十分でなかった語については、調査対象よりはらずすこととする。

得られた結果より、ローマ字表記の外行語の世界での分布状況と、簡体字表記の外行語の中国における分布状況をみる。さらに、2004 年より現在までの「人気度の動向」より、検索の増減傾向についても見ることにする。

なお、簡体字表記については、エキサイト翻訳（<http://www.excite.co.jp/world/chinese/>）及び、楽訳中国語変換（[http://www.jcdic.com/chinese\\_convert/index.php](http://www.jcdic.com/chinese_convert/index.php)）の翻訳・変換機能を利用する。

## 3. 結果

### 3-1. アルファベット表記による外行語の分布

図 1 から図 10 は、対象とした語の、検索結果である。（検索実施日：2013 年 1 月 31 日）

アルファベットが使われる、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア、ヨーロッパ、そして東南アジア、アフリカの一部での分布が見られる。

外行語別に、濃淡で示された検索率を見ると、「sashimi」「matsuri」「furoshiki」は上記の地域における平均的な分布がみられるが、「oden」「doraemon」「budo」については、分布に偏りがみられる。「oden」の場合、北アメリカとスウェーデンにおける分布が見られる。ただし、「oden」という名前があるため、実際、日本料理「oden」が検索されたとは言いきれない。「doraemon」は、東南アジアを中心に分布が広がっており、他の語では分布が見られない、インドや、パキスタン、バングラディッシュにも分布が広がる。東南アジア、南アジアにおける「ドラえもん」の人気の高さが伺える。「budo」については、色の濃淡からもスウェーデンの検索率が最も高いことが分かる。「関連する検索キーワード」を見ると「budo fitness」という語が急激増加していることが分かる。急激増加の理由は、スウェーデンにある人気のフィットネスジムに「budo」が使われていることによるものと思われる。



図 1 . sashimi



図 2 . matsuri

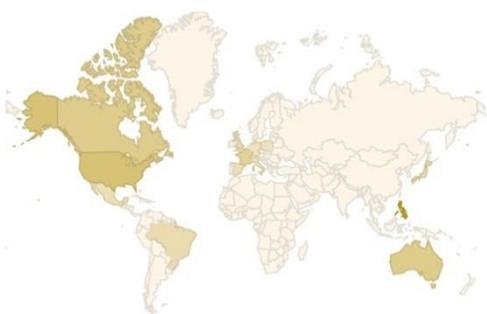


図 3 . shamisen

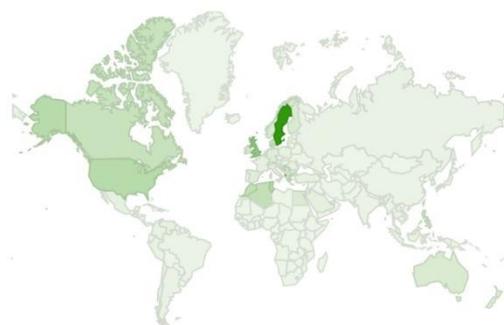


図 4 . oden



図 5 . doraemon



図 6 . furoshiki



図 7 . kabuki



図 8 . muji



図 9 . udon



図 10 . budo

### 3-2. 簡体字（中国語）表記の外行語の中国における分布

調査対象の10語より、検索ボリュームが十分でなくエラーが出た5語を除く5語の分布を図11～15に示した。（検索実施日：2013年1月31日）

図11の「刺身」と、図13の「歌舞伎」は分布が似ており、海に面した地域に分布している。「刺身」「歌舞伎」ほどではないが、「无印良品」も、海に面した地域を中心に分布している。「祭」は広く分布しているが、これは中国において、元々「祭」という語があるためであり、外行語としての分布とは、みなすことができない。

武道については、広範囲な分布が見られる。



図 1 1 . 刺身



図 1 2 . 祭



図 1 3 . 歌舞伎



図 1 4 . 无印良品



図 1 5 . 武道

### 3-3. アルファベット表記による外行語の人気度の動向

図 1 6, 図 1 7 に示した 1 0 語の人気度の動向で, もっとも検索数増加の傾向が見られるのが「doraemon」である。「udon」についても「doraemon」よりゆるやかでありながら, 増加傾向が見られる。

一方で, 検索数に減少傾向が見られるのが「budo」「kabuki」が見られる。「muji」は, アジアやヨーロッパで新店舗を出店しており, 検索数にも大きな変動が見られるものの,

常に高い検索数を保っている。日本への関心が、伝統文化から、アニメやグルメなどの大衆文化に移りつつあることが考えられる。

図 1 6 . アルファベット表記の外行語の使用推移①

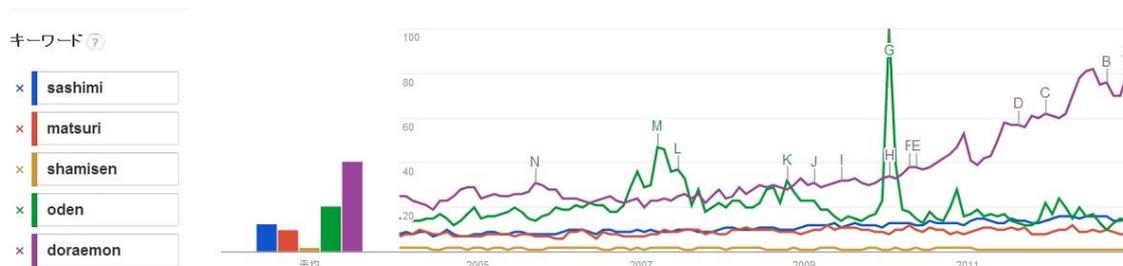
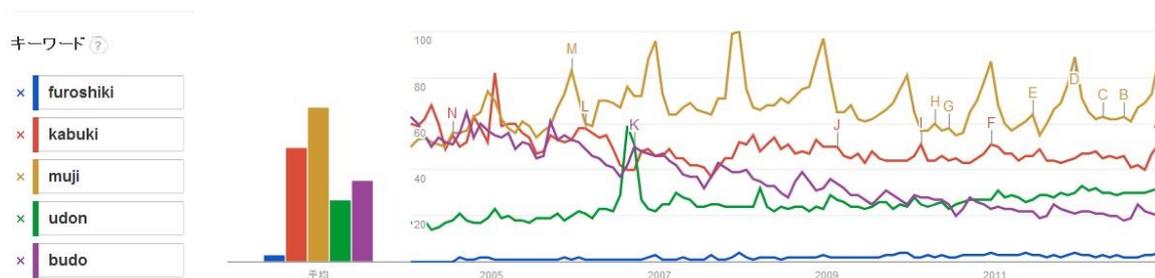


図 1 7 . アルファベット表記の外行語の使用推移②



### 3 - 4 . 簡体字（中国語）表記の外行語の中国における人気度の動向

アルファベット表記による「doraemon」が検索数増加の傾向が見られる一方で、中国において「ドラえもん」を意味する「机器猫」は、検索数が減少傾向にある。「無印良品」の簡体字表記である「无印良品」は、2008年頃まで減少傾向にあったが、その後増加傾向に転じている。

図 1 8 . 簡体字表記の外行語の使用推移①

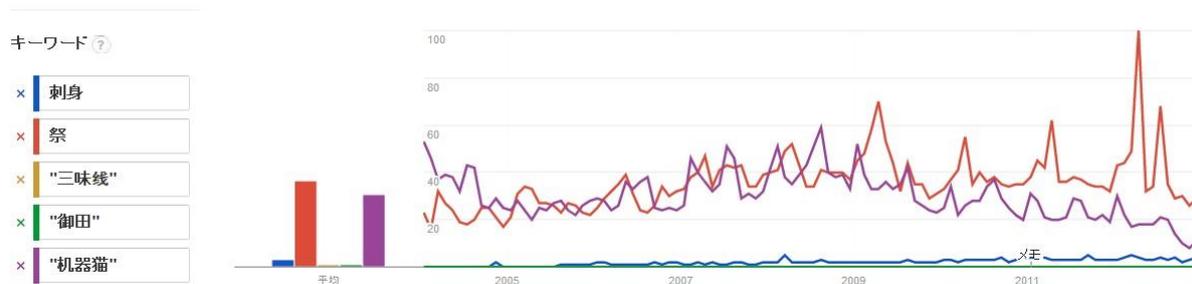
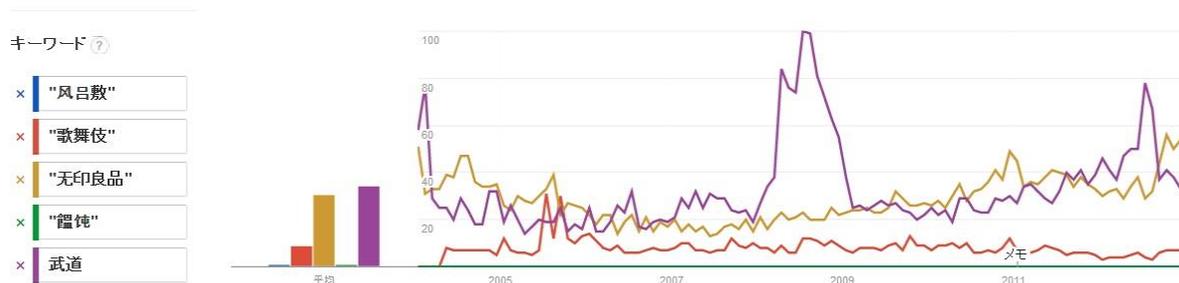


図 19. 簡体字表記の外行語の使用推移②



#### 4. 考察

グーグルインサイトの利用により、日本への関心が、伝統文化から、アニメやグルメなどの大衆文化に移りつつあることが分かった。ただし、対象をアルファベットをあまり用いない国の言語にまで広げると、アルファベット使用国とは、異なる結果が見られる。外行語の動向は、他言語の表記まで対象に入れることで、より詳しく、正確な分布状況が分かると考える。

#### おわりに

本稿では、グーグルインサイトにより、アルファベット表記の外行語、簡体字表記の外行語の分布状況とそれぞれの語の特徴を探った。結果、外行語の正確な分布を探るには、アルファベット表記、簡体字表記だけでなく他の表記による外行語の分布まで調査を広げる必要があることが分かった。

ただ、日本のカタカナのように、外行語の読みを、それぞれの言語でどのように表記するかを探る手だてがない。読みが検索できる機能の開発が待たれる。

#### <参考文献>

井上史雄（1995）「日本語の国際化と沖縄の言語状況」『第 1 回研究報告会予稿集』国立国語研究所，pp9-16

井上史雄（2012）「日本語世界進出のグーグル言語地理学—グーグルインサイトにみる外行語総合分布」『明海日本語』17, pp29-42

井上史雄（予定）「言語景観によって観察される方言の社会言語学的地位の上昇—グーグルマップおよびグーグルインサイトの利用」